

平成 29 年度  
認知症サポーター優良活動事例と  
認知症サポーターステップアップ講座展開優良事例  
表彰団体

1. 自治体等認知症サポーターの活動事例

- ①碧南市キャラバンメイト連絡会  
(愛知県碧南市) 認知症サポーター発案、主導による  
利用者とスタッフが共に楽しむ認知症カフェ

2. 企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例

- ①株式会社 三菱東京 UFJ 銀行 全店舗が地域包括支援センターとの連携を  
可能とする金融機関の実践
- ②株式会社 イトーヨーカ堂 認知症の顧客対応を契機に  
地域連携ネットワークを構築  
〈継続・発展事例〉

3. 認知症サポーターステップアップ講座展開事例

- ①上天草市 高齢者ふれあい課 認知症サポーターの活動に直結する  
(熊本県上天草市) ステップアップ講座の展開

# 平成 29 年度 認知症サポーター優良活動事例と 認知症サポーターステップアップ講座展開事例

## 選考評価のチェックポイント

### ●「認知症サポーターの活動事例」

- ①多職種のメンバーで構成され、各サポーターの属性、特色を生かしているか。[多職種構成]
- ②自治体等地域の関係機関との連携が図れているか。[連携]
- ③地域の実情に応じた工夫がなされているか。[工夫]
- ④地域における認知症の人・その家族が活用しやすい機能を備えているか。[活用のしやすさ]
- ⑤活動地域で受け入れられ、評価されるべき活動実績があるか。[活動実績]

### ●「企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例」

- ①自治体等地域の関係機関との連携が図れているか。[連携]
- ②業務の特徴に応じた工夫がなされているか。[工夫]
- ③活動地域で受け入れられ、評価されるべき活動実績があるか。[活動実績]

### ●「認知症サポーターステップアップ講座展開事例」

- ①受講者の実践活動に結びつくように工夫をして講座が組み立てられているか。[工夫]  
(活動に役立つ内容が盛り込まれているか、活動内容の発案機を促す内容があるか 等)
- ②講座修了者が地域で必要とされる活動を実践しているか。[実践]

# 平成 29 年度 認知症サポーターキャラバン表彰 選考委員会

## 選考委員

50音順

委員	浦上 克哉	(鳥取大学医学部保健学科教授)
委員	大森 彌	(東京大学名誉教授)
委員	亀井 利克	(三重県名張市市長)
委員	斎藤 正彦	(東京都立松沢病院院長)
委員	鳥海 房枝	(特定非営利活動法人メイアイヘルプユー事務局長)
委員	玉井 顯	(敦賀温泉病院理事長・院長)
委員	古川 貞二郎	(恩賜財団 母子愛育会理事長)
委員	堀田 力	(公益財団法人さわやか福祉財団会長)
委員	森 貞述	(前愛知県高浜市市長)
委員	山崎 史郎	(NPO 法人地域ケア政策ネットワーク代表理事)
委員	菅原 弘子	(全国キャラバン・メイト連絡協議会 /NPO 法人地域ケア政策ネットワーク事務局長)
オブザーバー	川島 英紀	(厚生労働省老健局総務課 認知症施策推進室 室長補佐)